

1. 件名：「浜岡原子力発電所 3号炉及び4号炉の地震等に係る新規制基準適合性
審査に関する事業者ヒアリング(159)、(192)」

2. 日時：令和6年1月31日(水) 16時10分～17時37分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査
官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与、道口主
任技術研究調査官、山下技術研究調査官

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 原子力土建部長
他10名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち地震による津波について（コメ
ント回答）
- ・浜岡原子力発電所 地震による津波のうち海洋プレート内地震の津波評価
（本編資料）
- ・浜岡原子力発電所 地震による津波のうち海洋プレート内地震の津波評価
（補足説明資料）

<<本年1月23日に受取済み>>

- ・浜岡原子力発電所 地震による津波のうちプレート間地震の津波評価につ
いて（コメント回答）
- ・浜岡原子力発電所 地震による津波のうちプレート間地震の津波評価につ
いて（本編資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	はい、規制庁地震津波審査部門のスズキですそれでは、今から浜岡原子力発電所の津波に係るヒアリングを始めたいと思います。
0:00:12	案件は、それぞれ二つありまして一つは地震による津波のうち海洋プレート内の組み合わせの方針ですねこれに係るコメント回答これの2回目のヒアリングと、
0:00:25	あとはプレート間地震の津波評価のコメント回答、こちらも2回目のヒアリングということで、
0:00:30	それぞれ1月31日、プレート間の方は1月23日ですかね資料を受け取ってますので、この内容について1回目のヒアリングからの変更点を中心に、まずは説明をお願いします。
0:00:43	はい。中部電力の尾川です。今ご説明いただきましたように二つの案件についてご説明をさせていただきます。
0:00:51	プレート内地震につきまして前回、
0:00:54	1月24日、それからプレート間地震につきまして昨年の12月26日の日に、1回目のヒアリングを実施いただいております。
0:01:01	それぞれ
0:01:04	点からの記載の変更点を中心にですね、ご説明をさせていただきたいと思います。
0:01:09	それではよろしく申し上げます。
0:01:13	中電力のスズキです。
0:01:15	浜岡原子力発電所基準津波の策定のうち、地震による津波のコメント回答資料について、前回資料からの主な変更点を説明します。
0:01:24	まずは、各資料の表紙タイトルですが、本編資料と補足説明資料については、前回は地震による津波の資料としていましたが、
0:01:33	今回はプレート内地震の津波に関する審査だとわかるよう適正化しました。
0:01:38	コメント回答資料に関しては、会合にて、地震による津波へのコメントとしてお受けしておりますので、地震による津波のコメント回答としてございます。
0:01:47	コメント回答資料の12ページをお願いします。
0:01:53	資料冒頭におつけしている地震による津波の全体概要のうち、プレート間地震の津波評価の検討概要については、本日説明のプレート間の資料に合わせて最新化してございます。
0:02:05	続いて、18ページからのコメント回答の修正点をご説明します。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:11	24 ページをお願いします。
0:02:16	こちらの鳥島周辺海域の地震に関する補足情報について、中央図の津波を発生した地震のメカニズム解の横に、それぞれに観測した津波の津波マグニチュードを追記して、規模感がわかるようにしました。
0:02:30	次の 25 ページの津波の組み合わせを検討する内陸内陸地殻内地震の津波は系に関して、このページの位置付けを明確化しました。
0:02:39	箱書きですが、津波の組み合わせでは、プレート間地震と内陸地殻内地震等の組み合わせを考慮することとしており、
0:02:46	敷地への津波影響を評価する観点から、敷地における影響が相対的に大きい地震をそれぞれ選定し、それらの組み合わせを検討します。
0:02:55	ここで組み合わせを考慮する内陸地殻内地震の津波は、形でご確認いただけるように、17 断層除き津波マグニチュード-1
0:03:05	50 センチ以下を大きく上回る水位変動が発生しています。
0:03:09	このことから、①プレート間地震とその他の地震の発生時間間隔の検討において、全地震の発生状況を概観した上で、津波マグニチュード-1 を上回る、
0:03:20	津波を発生させる大規模なM7 以上の地震を抽出し、検討する。
0:03:25	ことは、敷地の津波評価の観点から漏れのない検討となっていると考えられます。
0:03:31	続いて 27 ページからの南海トラフに関する各種検討ページに関しては、
0:03:36	理解しやすさの観点から、各ページの記載内容を見直し、充実化してございます
0:03:42	例えば 28 ページは、歴史地震の本震後 10 年間の全地震の発生状況の外観ですが、今回は各ページの位置付けや内容が少しわかりづらい部分があったので、
0:03:53	箱書きの左下のところに、歴史地震本震後 10 年間の全地震といった、そのページの検討内容をあらわすラベルを追加して、位置付けを明確化し、それに合わせて記載内容も適正化してございます。
0:04:06	また、29 ページは、本震後 10 年間のM7 以上の地震ですが、
0:04:12	こちらのような検討の結論にあたる記載のあるページには、
0:04:16	それがわかりやすくなるよう、ここでは赤字の吹き出しで時間間隔は数ヶ月から数十年の間があるとありますが、こういった形で結論となる考察を明示してございます。
0:04:27	35 ページをお願いします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:32	こちらには、(1)の①のプレート間地震とその他の地震の発生時間間隔の検討の検討結果のまとめのページを追加しました。
0:04:42	個別の内容に変更はございませんので、ご説明は省略いたしますが、
0:04:46	一番上の国内外のM9 クラスのプレート間地震、本震とその他の地震の発生時間間隔を検討した上で、
0:04:54	その下の南海トラフのプレート間地震とその他の地震の発生時間間隔の検討として、緑の歴史地震に関する検討と、オレンジの近代観測地震に関する検討を実施し、
0:05:06	検討結果として、一番下の黄色の箱書き、黄色の箱書きの通り、南海トラフの地震の事例を確認した結果、
0:05:15	プレート間地震に伴う応力変化の影響等により、津波被害を発生させる可能性のあるM7 以上のその他の地震が発生する時間間隔は数ヶ月から数十年の間があることを確認しました。
0:05:28	41 ページをお願いします。
0:05:34	こちらには(1)②の南海トラフのプレート間地震による、その他の地震の断層活動への影響の検討方針を追加しました。こちらの検討では、緑色はクノ、
0:05:45	南海トラフの地震のメカニズム解に基づく断層タイプの確認、及び、オレンジ色枠の南海トラフの海底断層分布に基づく断層タイプの確認を実施いたします。
0:05:58	これら南海トラフの断層タイプの確認結果を踏まえて、M9 クラスのプレート間地震に伴う周辺地殻の伸張作用による南海トラフの宇和番下盤の断層活動への影響を検討します。
0:06:11	このうち緑の地震のメカニズム解に基づく断層タイプの確認について、前は一つのページで示していましたが、
0:06:19	43 ページの全地震のメカニズム解の外観と、
0:06:23	44 ページのM7 以上の地震のメカニズム解の確認結果について、2 ページに分けてステップを踏んでご確認いただけるようにしました。
0:06:33	また、47 ページの南海トラフの海底断層分布に基づく断層タイプの確認では、
0:06:39	箱書き 2 行目の通り、南海トラフにこれらの逆断層等の圧縮型の断層が分布することは、南海トラフ周辺で発生したM7 以上の地震の断層タイプが圧縮型であることや、
0:06:52	南海トラフ及び南海トラフ沖側では正断層活動は低調で、M6 以上の正断層型の地震も発生していないことと整合的である。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:03	という起こった地震等の関係について考察を加えています
0:07:07	49 ページをお願いします。
0:07:11	こちらには(1)②の検討結果のまとめのページを追加しました。
0:07:16	こちらも個別の内容のご説明は省略しますが、一番上の近年のM9 クラスのプレート間地震によるその他の地震の断層活動への影響を確認した上で、
0:07:26	その下の南海トラフのプレート間地震による、その他の地震の断層活動への影響として、緑色はクノ断層、南海トラフの地震のメカニズム解に基づく断層タイプの確認と、
0:07:38	オレンジ色枠の南海トラフの海底断層分布に基づく断層タイプの確認を行い、その結果として、下の黄色の四角ですが、南海トラフ及びその沖合の宇和盤及び下盤では、
0:07:51	発生した地震のメカニズム解及び海底断層分布に基づき、
0:07:56	主に逆断層等の圧縮型の断層が分布していることを確認し、
0:08:01	これらはプレート間地震による沈み込み方向の伸長作用により、これらの圧縮型の断層活動は緩和される方向となると考えられると結論付けてございます
0:08:12	コメント回答資料の主な変更点に関するご説明は以上です
0:08:20	引き続きすみませんプレート間の方のご説明に入らせていただきます。
0:08:30	タナオカ原子力発電所地震による津波のうち、プレート間地震の津波評価について前回ヒアリングからの変更点を中心に、コメント回答資料をご説明します
0:08:41	まず、5 ページをお願いします。
0:08:44	こちらは目次です。
0:08:46	今回資料構成を変更しており、
0:08:48	一つ目の全体概要、三つ目の津波評価結果のまとめについて、前回は地震による津波の全体概要評価結果まとめとして、海洋プレート内地震や海域の活断層の津波評価についても説明する構成としておりましたが、
0:09:05	今回はプレート間地震の津波評価のみを説明する構成と変更しております。
0:09:10	10 ページをお願いします。
0:09:14	こちらは検討概要です。
0:09:16	前回ヒアリングから記載を適正化しております。
0:09:19	11 ページをお願いします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:21	11 ページは、検討フローです。
0:09:24	変更点について、青色の背景としている敷地周辺への津波影響を特に考慮した検討波源モデルの設定に関して、
0:09:33	左下に赤字部分を追記しています。
0:09:36	読み上げますが、
0:09:37	浜岡敷地では既往最大地震である宝永地震の津波よりも、
0:09:42	安政東海地震等の津波の方が大きいこと等を考慮し、
0:09:47	既往最大地震以外も含む企業 5 地震の津波痕跡再現モデルを、敷地が位置する遠州灘沿岸域においても検討し、
0:09:56	それをもとに、Mw9 クラスの検討波源モデルを設定することとしております
0:10:02	また、その右上の方の赤字。
0:10:04	検討波源モデルCから、検討波源モデルDを設定した。
0:10:09	考え方の記載も、敷地への影響が大きいモデルを設定
0:10:26	を次々すいません。
0:10:27	またその右上の方の赤字検討波源モデルCから検討波源モデルDを設定した考え方の記載も、敷地への影響が大きいモデルを設定する観点から、
0:10:39	広域の津波特性を考慮した検討波源モデルCの町を滑り域の深さを反映したモデルの設定という広めの記載へと変更しております。
0:10:48	詳細については後程ご説明します。
0:10:51	14 ページをお願いします。
0:10:55	こちらはコメントとコメント回答概要です。
0:10:58	右下の破線部分を追記しています
0:11:02	今回の基準断層モデルの設定方針の整理に伴い、今後のまとめ資料では検討波源モデルの名称を記載の通り変更予定です。
0:11:11	なお今回は整理過程を確認できるよう、変更前のモデル名をそのまま使用しております。
0:11:18	15 ページから 25 ページについては、一部記載を適正化しておりますが大きな変更はございません。26 ページをお願いします。
0:11:28	こちらは今回追加したページで、敷地周辺への津波影響を特に考慮したモデルの設定方針を整理しています。
0:11:36	箱書きですが、南海トラフでは、歴史記録から、宝永地震が既往最大規模の地震とされていますが、宝永地震の津波より、安政東海、南海地震の津波の方が大きな地域があることも確認されており、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:50	防災対策の観点からは、それぞれの地震を特別に区分することなく検討することが望ましいとされています。
0:11:58	中央下の図のように、浜岡の敷地周辺においても、既往最大地震である宝永地震の津波よりも、安政東海地震等の津波の方が大きくなっています。
0:12:08	また右の図のように、内閣府 2015 によると、敷地周辺への影響が大きいと考えられる東海地域の波源の滑り量の推定値は、
0:12:17	既往最大地震である宝永地震のものよりも、安政東海地震のものの方が大きくなっています。
0:12:23	そこで、より敷地への影響が大きいモデルを設定する観点から、敷地への津波影響が支配的である東海地域に着目して、
0:12:31	まず既往最大地震以外も含む企業 5 地震の津波痕跡再現モデルを、敷地が位置する遠州灘沿岸域において検討し、それを基にMw9 クラスの検討波源モデルを設定することとします。
0:12:45	27 ページから 29 ページについては前回ヒアリングから大きな変更はございません。
0:12:51	30 ページをお願いします。
0:12:55	こちらは検討波源モデルDの設定のうち、広域モデルの町を滑り域の深さ反映の考え方です。
0:13:02	箱書き等を修正してございます。
0:13:05	設定した既往最大地震の広域の津波特性を考慮したモデルCと、
0:13:10	敷地周辺の津波影響を特に考慮したモデルAを比較した結果、モデルCの町を滑り域がモデルAよりも深い領域まで設定されていることから、
0:13:20	町を滑り域により励起されて到来する特に大きい津波の継続時間が長くなり、
0:13:25	敷地への津波影響が大きくなる可能性があると考えられます。
0:13:30	そこで、敷地への影響の観点からモデルAに対し、モデルCの町を滑り域の深さの設定を取り込んだ、検討波源モデルDを設定することとしました。
0:13:41	31 ページは検討波源モデルDの設定のうち、水位上昇側の津波評価結果の確認です。
0:13:48	右側の実推の時刻歴は形のように、モデルCはモデルAと比べて、町を滑り域が深い領域まで設定されていることから、押し波第一波の、特に大きい津波の継続時間が相対的に長く、
0:14:01	取水槽の水位も大きくなっていることを確認しました。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:05	さらにモデルDは取水槽への影響が比較的大きいモデルCの津波の特徴を反映した上で、モデルCAよりも、取水槽の水位が大きくなっていることを確認しました。
0:14:18	32 ページは検討波源モデルDの設定のうち、水位下降側の津波評価結果の確認です。
0:14:25	右側の水位の時刻歴は形のように、モデルCは、町を滑り域がモデルAよりも深い領域まで設定されていますが、
0:14:33	それによる引き波への影響は小さく、
0:14:36	スイテイカジ緩和モデルAの方が長くなっていることを確認しました。
0:14:41	さらにモデルDは水位低下時間がモデルCよりも長く、モデルAよりも短くなっていることを確認しました。
0:14:48	33、34 ページについては、一部記載を適正化しておりますが大きな変更はございませんので、35 ページをお願いします。
0:14:59	こちらは各検討波源モデルの浅部の破壊形態と特性化方法の整理結果です。
0:15:04	表の上下に特性化方法の分類、土木学会の手法、内閣府の手法、列方向に浅部の破壊形態の分類、(1)断層破壊がプレート境界面浅部に伝播する場合、
0:15:16	(2)、赤井川で浅部と分岐断層に伝播する場合、
0:15:21	(3)超滑り域の深さを広域モデルと同じとした場合として、該当する検討波源モデルをそれぞれ表内に記載しております。
0:15:31	ここで、検討波源モデルCの右側の枠、
0:15:34	(2)断層破壊がプレート境界面浅部分岐断層に伝播する場合を、
0:15:39	想定していないことについて、
0:15:41	検討波源モデルCにより代表することを記載しており、括弧内に、その考え方として、下で検討している検討波源モデルAの津波評価結果が、
0:15:51	検討波源モデルBの津波評価結果を上回ることから、この(2)の検討は、(1)の検討により代表できると評価していることを記載しております
0:16:01	また、そのさらに右側(3)町を滑り域の深さを広域モデルと同じとした場合について、
0:16:08	検討波源モデルCは、もともと町を滑り域を深い位置に設定していることから、該当するケースがないことがわかるようにしております。
0:16:17	36 ページから 38 ページは、前回ヒアリングから変更はございませんので、39 ページをお願いします。
0:16:27	こちらは日本海溝の手法を用いたモデルとの比較の検討概要です

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:32	左側の検討波源モデルADについて、その下、青のマーカ、緑のマーカのところ、それぞれのモデルの特徴を追記しました。
0:16:41	また右側日本海溝の津波評価手法モデル①から③についても同様に、それぞれのモデルの特徴を青、緑のマーカのところ追記しました。
0:16:53	4041 ページは、前回ヒアリングから変更はございませんので、42 ページをお願いします。
0:17:00	42 ページからは参照動的パラメータに関するパラメータスタディについてお示ししています。
0:17:07	43 ページは検討方針。
0:17:10	44 ページは、設定条件、45 ページは結果一覧で、
0:17:15	46 ページからはパラメータスタディの妥当性確認です。
0:17:19	こちらのページは、妥当性確認の検討方針として整理しました。
0:17:24	図のフローの通り、まず、パラメータスタディの影響分析として、評価地点、
0:17:30	敷地詰め、前面 1 から 5 号取水層、34 号取水塔ごとに、当該地点への影響が大きい基準断層モデルのパラメータスタディ結果に基づいて、
0:17:40	各パラメータスタディ因子が津波評価に与える影響の大きさを分析します
0:17:45	そして、左側のグラフのように、パラメータスタディ因子の影響が順に小さくなる傾向を確認した場合は、
0:17:52	より影響が大きい 1 から順に、パラメータスタディが行われていることから、
0:17:57	パラメータスタディの実施方法が網羅的な検討として妥当であることを確認します
0:18:04	一方、右側のグラフのように、パラメータスタディ因子の影響が同程度であることを確認した場合は、
0:18:10	パラメータスタディの順序によって選定されるケースが変わる可能性もあることを考慮し、
0:18:15	当該因子の組み合わせのパラメータスタディによる検討、組み合わせ検討を実施し、
0:18:20	組み合わせ検討の結果に基づいて、津波高等の最大ケースが抑えられていることを確認し、
0:18:26	パラメータスタディの実施方法が網羅的な検討として妥当であることを確認します。
0:18:32	47 ページは検討結果になります。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:36	表には上から敷地前年、取水槽、取水塔の確認結果をお示しています。
0:18:42	一番上の敷地前面については、パラメータスタディ因子の影響分析の結果、影響が順に小さくなる傾向があることを確認したことから、その右側の箱の通り、
0:18:53	より影響が大きい因子からパラメータスタディが行われているため、
0:18:57	パラメータスタディの実施方法が網羅的な検討として妥当であることを確認しました。
0:19:03	その下、取水槽については、パラメータスタディ因子の影響分析の結果、
0:19:08	ライズタイムと破壊伝播速度、破壊開始点の影響が同程度であることを確認したことから、その右側の箱の通り、当該因子の組み合わせを実施しました。
0:19:18	その結果組み合わせをせずとも、津波高等の最大ケースが抑えられていることを確認したことから、
0:19:24	パラメータスタディの実施方法が網羅的な検討として妥当であることを確認しました。
0:19:31	最後に取水塔については、パラメータスタディ因子の影響分析の結果、ライズタイムと破壊伝播速度、破壊開始点の影響が同程度であることを確認したことから、
0:19:41	その右側の箱の通り、当該因子の組み合わせを実施しました。
0:19:46	その結果組み合わせ検討を行うことによって、水位低下時間の最大ケースが抑えられていることを確認したことから、
0:19:54	パラメータスタディの実施方法が網羅的な検討として妥当であることを確認しました。
0:19:59	ただし、※下記の通り、組み合わせ検討によって最大ケースが変更になったという妥当性確認の結果を踏まえて、水位下降側については、組み合わせのパラメータスタディを検討手順の方に反映しました。
0:20:12	こちらは前回会合し、前回審査会合でご説明した通りで、
0:20:17	48 ページから 50 ページは、今説明した三つのパラメータスタディのシノ営業分析の方針についてお示しています
0:20:25	51 ページをお願いします。
0:20:30	51 ページは取水槽取水等に関する組み合わせ検討を行うケースをお示しています。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:36	組み合わせ検討では、基準断層モデルごとに、ライズタイムのパラメータスタディの結果、影響が大きい複数のライズタイムのケースを選定し、それぞれのライズタイムのケースに対してさらに破壊伝播速度、破壊開始点のパラメータスタディによる検討を実施します
0:20:53	組み合わせ検討において選定するライズタイムのケースは表の通りです
0:20:58	また組み合わせ検討の結果、津波高の最大値が確認できるまで、ライズタイムのケースを拡大して検討し
0:21:06	52 ページは、水位上昇側の取水層に関する組み合わせ検討結果をお示ししています
0:21:12	例えば右上の基準断層モデル 3-2 の結果を見ていただくと、赤字で最大と書いたケースは、
0:21:19	赤色の棒の基本的なケースになっていて、
0:21:22	薄い赤色の組み合わせ検討ケースはそれより小さくなっています
0:21:26	そのため、右側の赤字で記載した通り、
0:21:29	組み合わせ検討を行うことによって、津波高の最大ケースが抑えられているということを確認しています
0:21:37	右下、赤字で記載した通り、組み合わせ検討によって選定ケースが変わらないこと、また津波高の最大ケースが抑えられていることを確認し、
0:21:47	53 ページは水位下降側の取水等に関する組み合わせ検討結果をお示ししています
0:21:53	例えば、右下の基準断層モデル、2-3 の結果を見ていただくと、赤字で最大と書いたケースは、青色の棒の基本的な検討ケースではなく、
0:22:02	水色の棒の組み合わせ検討ケースとなっており、
0:22:05	水位低下時間は数秒ですが長くなっています。
0:22:09	そのため右側の赤字で記載した通り、組み合わせ検討を行うことによって津波高の最大ケースが抑えられているということを確認して今
0:22:18	54 ページは評価結果一覧です
0:22:22	55 ページからは 4 章、内閣府の最大クラスモデルとの比較による確認についてお示ししています
0:22:30	55 ページは検討方針で、
0:22:33	こちらは内閣府の最大クラスモデルの概要を示した上で、箱書き 3 ポツ目ですが、敷地への影響の大きい内閣府の最大クラスモデル、水位上昇側ケース①、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:44	水加古川ケース⑧と、内閣府 2012 の手法を用いて設定した検討波源モデルAについて、
0:22:51	パラメータ設定と津波評価結果を比較し、
0:22:54	敷地への影響の観点から、内閣府の最大クラスモデルのパラメータを含めた検討になっていることを確認することにより、
0:23:02	プレート間地震の津波評価の妥当性を確認することとしています
0:23:06	56 ページは水位上昇側の分析
0:23:09	57 ページは水位下降側の分析、58 ページはまとめです。
0:23:16	箱書き 2 ポツ目の通り、敷地への津波評価が内閣府の最大クラスモデルのパラメータを含めた検討になっていること。
0:23:23	その上で敷地への影響の観点からより幅広く、
0:23:27	不確かさを考慮したものとなっていることから、敷地のプレート間地震の津波評価は妥当であることを確認しました。
0:23:34	59 ページからはプレート間地震の津波評価結果のまとめです。
0:23:39	資料の説明は以上になります。
0:23:47	はい。規制庁鈴木です。ご説明ありがとうございました。ワー申しますかね説明順の。
0:23:54	組み合わせの方、1 月 31 日付ですかね。
0:23:58	こちらの方からということで、すみませんちょっと前回のヒアリングで確認しあわせてあんまり中身の細かい部分で、部分ではないんですけど、
0:24:08	前回の会合で例えば 59 ページとか以降出てくる模式図ですかね。
0:24:14	これを
0:24:17	適正化をという話はし、
0:24:20	であったかと思うんですけど、それってどう修正。
0:24:24	されてるんですけど。
0:24:27	これ掴んだなんていうか前回の会合で例えばその、何か応力変化によって、こういう断層が、
0:24:34	できつつあるとか動いているかのように見えてしまうとかっていうさうい う、
0:24:38	話をですね。
0:24:40	あとプレートを境界部分が動くはずなんだけどちょっと場所が手を打つ 場所は違くないですかというような話はしてたかと思うんですけど。
0:24:49	その辺はどう改善されたんですけど。
0:24:52	はい。衛藤。
0:24:54	中部電力赤松です。衛藤。50 ページ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:57	19 ページ等にございまして、50 ページの方に、当前回この
0:25:05	パターンのプレート境界型の地震とその他の地震の発生の模式図っての、2 パターンございまして、
0:25:14	今回、19 ページにおつけしている方に統一させていただいてきました。前はですねプレート間地震の発生。
0:25:23	矢印と、矢印に対する引き出し線の、その置き方というか、にちょっと誤解が生むような状況だったということと、
0:25:33	あと断層の、南海トラフの断層として逆断層型のものを、模式図の中に書いてそこに応力変化によって伸張作用が働いて地震が発生するかのよう
0:25:44	ちょっと誤解を生むような図になっていたところを、ちょっと今回、破線で、
0:25:52	断層を表現してちょっと誤解が生まれにくいようなものに修正してございます。
0:25:59	はい 19 ページとか 50 ページにあるような図はこれは前回から
0:26:08	変わってなくて前はこれとは別に、
0:26:14	確かに
0:26:17	藤。
0:26:19	はいはい志田坂野、甲斐コウ
0:26:22	海洋プレートの中に何かプレート間地震の断層変異っていうふうに黒い点が打ってあったり、
0:26:28	あとは地殻上盤側も下盤が主ですけど地殻の伸張。
0:26:34	作用っていうところに、断層のところナカ段差をつくって、
0:26:41	ここで、なんていうか実際に動いて、逆断層の動きが引っ張って逆な動きがあるかのようにですかね断層の変位みたいなものまで含めて何か書いてあったってそれをとっばらって、
0:26:53	もうずっと下統一しましたってそういうことですね。はい。
0:27:00	はい、わかりました。なんでちょっと 19 ページのところもこの近くの応力変化とか、まあ、あの内浦湾にもした場合にも両方書いてますけど、
0:27:09	特にこれによって後、内陸地殻内の断層が動くのが動かないのかの検討をしますって意味で、この段階では別に段階、
0:27:19	トラフだけをイトウして変えてる一般的な模式図として、
0:27:23	これが動くのか動かないのかとどのぐらいの間隔で動いたのかっていう検討をしますとそれだけにとどめたという理解でいいですか。
0:27:31	はい、わかりました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:34	ではですね、基本的には、特に何かは新しいものを出して、
0:27:42	いただいたわけではないので、もし前回機器、確認、
0:27:48	そびれたものがあれば、
0:27:51	言っていただけだと思いますけど。
0:27:57	ちょっと途中であった。
0:27:59	24 ページあまりこれ、
0:28:03	今回の地震による津波という意味だと、補足になります。なるかと思 いますけどこれ一応、
0:28:11	昨年の 10 月これ 24 ページ 10 月 31 日までなので、昨年、
0:28:19	あったな、なんていうか地震のグリルの終わりには、何か長編か
0:28:25	泊発電所に対して微々たるもんだったと思うんですけど一応それも入っ てるんですよこれ。一応なお書きで 10 月に発生した地震についても とっていて、
0:28:35	まだ確定情報は出てないけれども、火山性であろうというところは確か 情報として出ていて、
0:28:42	これワ一家の中でもまだ確定ではないけどその可能性がみたいな話 は、地上保険とかで確か、
0:28:50	報告はしてる。
0:28:52	ただ今回の
0:28:54	地震による津波のところで、これが何かこれ以上取り上げてクリティカル 何か確認しなきゃいけないもんじゃないってところは、
0:29:03	一応参考補足情報として、あくまで補足情報として入れてあるって その意味合いで良いですかねこれ。
0:29:13	はい今鈴木さんにご確認いただいた通りで、中部電力ナカマ
0:29:18	で江藤最近のトピックスとしてというその側面とですね 23 ページの方 でマグニチュードクラス別にその津波の発生有無というところ。
0:29:28	を示してますけどもその中で、この鳥島周辺だけ、M5 クラスでもその数 字が記載されてい
0:29:37	いるということではい。24 ページの方でも全閉右、右の時空間分布の方 で前ページの対象期間としてますけども、この対象期間にあるものが 23 ページの方にも、
0:29:49	グラフ、表として、データが入ってきてますので、ちょっとそこの、これ は何だろうというところも疑問にお答えするという意味合いでもお付けし ているという
0:30:04	あ、はい、わかりました。ありがとうございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:08	で、次の 25 ページは、前は、あれかな、あんまり目的とかがよくわからず唐突感があったところ、一応これは、
0:30:19	すでに組み合わせると言っている海域活断層による地殻内イシコの津波、
0:30:27	拾っているようなものというのがもうさすがにそれが漏れないような検討をしてるんですよということを示しますと、
0:30:35	ということですね。はい。
0:30:38	ちょっと、17 はもともとの規模自体が大きいものじゃないので、はい。
0:30:43	シマ最終的な組み合わせの候補として上がってくるのはもっと国御前崎とか、
0:30:48	順番としてはそういう順番なんで、はい。
0:30:52	この①、26 ページからのところは最終的には南海トラフのプレート間地震、本震とそのあとの、
0:31:03	地震の発生間隔強の発生間隔というそのサイトの特性、
0:31:08	というものを検討するにあたってまずはM9 クラスの地震、周りはどうだということで、
0:31:15	前例を探し、
0:31:17	次にそれを後に南海トラフの特徴ということで 27 ページから、
0:31:23	南海トラフ全域で検討をしましたと。
0:31:28	発生間隔としては、長いものですよと。それをM6 に拡張して、
0:31:36	30 ページからしてもそんなに変わりません。
0:31:39	で、
0:31:40	地震観測記録が存在する近年のものをさらに検討しましたと。
0:31:46	ここは安全委員会から、特にヒアリングから、
0:31:50	何か地震が出されたわけじゃないんで、
0:31:54	ここはファクトの整理として、
0:31:56	お願いします。はい。
0:31:59	いいですか。特にこれは
0:32:02	ということで
0:32:06	はい。
0:32:08	ちょっとですね、これちょっと前回ちょっとそびれて、
0:32:12	ここで今整理した中に上がっているもの等、これは別の切り口の、
0:32:21	応力変化の方で、
0:32:25	43 ページとかかな、ちょっと領域を
0:32:28	南海トラフと沖合等でCが日向灘でDが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:33	伊豆藤湖周辺といって、
0:32:36	この位置を伊豆ところ周辺はこれは別物ですよという、
0:32:42	ことではあるんですけど、
0:32:45	実際に起こってる人この 43 ページで言ってる伊豆ところ周辺っていうところと、
0:32:52	例えばこの 33 ページがM6 ですよ。
0:32:57	とか、30 ページがM7 か、
0:33:01	これとの関係はどういうふうに見ればいいですか考えて、
0:33:06	一応、
0:33:07	伊豆と後周辺のキタノ。
0:33:11	は次のところでは、一応、
0:33:15	シーニングは、地震はっていうか紐付けはわからないけれども、一応、事実としては、
0:33:22	何だこれ昭和島南海とかの後にも起こって、
0:33:27	いる。
0:33:29	けれども、これは一応、
0:33:33	多分月本社の概念としては、一応、別々の、
0:33:37	もので別に首藤 南海とかに引きずられて、引っ張られて何か起こってるものではないんですっていうそういう見方なんですかそれとも、
0:33:45	ちょっとそこら辺がですね。
0:33:48	もしくは、
0:33:50	伊豆藤湖周辺のところで多分正断層とか、47 ページですかね伊豆
0:33:55	入れ全機太断層体。
0:33:58	これはもっと地震が起こってるところもっとミナミなんですっていうふうに読めばいいんですかねちょっとここその辺りを、
0:34:06	地震の情報を整理したところと、あとその泉図と後周辺はこれは別物ですっていう、
0:34:12	後で出てくる説明との関係を、
0:34:16	ちょっと教えていただきたいんですけど。
0:34:21	はい、衛藤な中部電力永松です。衛藤地震の整理ということで、何点か出ていってその関係性をご確認いただいたということで、衛藤さん 13 ページの(1)の①の方、こちらは地震の、
0:34:37	ちょっとメカニズム等を体系的に整理することが難しいので、地震の本震と関連性があるかどうかということにかかわらず、まず時間間隔として、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:47	どういったものがあるかということをお示した、その中で、
0:34:50	例えば 3 番ですとか 35 番が古泉東郷周辺の地震としてあるということで、3 番なんかですと
0:35:02	普通科ぐらいですかね、
0:35:05	組み合わせという観点では、十分長い時間があるのかなという地震として、比較的規模としても小さいかなというものが起きていると。
0:35:13	一方、45 ページですとか、
0:35:18	43 ページ、44 ページ。
0:35:19	というものは、最近、97 年から 22 年、メカニズム解が体系的に、F-net の方で整理されているものを網羅的に整理したのになってまして。
0:35:30	で、伊豆東郷周辺と言いますと 45 ページの方でその数を整理してございますけども、
0:35:39	地域としては正断層型の地震が卓越していて、
0:35:42	という地域になっています。
0:35:45	その地域的な違いという。
0:35:48	正断層型の地震が一応起きているということで、
0:35:52	地域的な違いというものを、
0:35:54	整理しましたというものが、48 ページになってまして、江藤伊豆藤湖の周辺、このエリアとして囲んだあたりは、伊豆小笠ら解雇。
0:36:04	123 と書いてありますけどもそのタテ南北方向の伊豆オカオガサワラ会 コウに関係した構造であって、
0:36:12	土肥海溝の沈み込みに伴って衛藤伊豆藤コウこの下の、
0:36:18	地震波速度構造断面図を見ていただきますと、当行周辺は結構地殻が厚くなっていると。
0:36:25	その周辺では、リフト、廃坑が拡大することによって、その拡大に伴って形成されるような、正断層が発達していると。そういった地域
0:36:33	であって、地域性が異なり、比較的距離が離れているということと、規模としては、比較的小さい正断層のものが起きていると。そういった整理、
0:36:52	ごめんなさいね、ちょっと 33 ページの中で、本震発生後、津波が発生したその他の地震で、
0:37:03	例えば、
0:37:04	まず、35 とか 27 が一応青いマーカーが塗られていて、
0:37:11	これは 2735 番です。といってもこれ別に 10 年後なんですけども、
0:37:17	これは、
0:37:20	一応 35 とか 27 は、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:26	これはいつ、
0:37:28	水頭コウノそれぞれ両端ぐらいには、実領域としては伊豆の方になるんですか。
0:37:34	領域Bになるんですかねこれ。
0:37:38	はい。中部電力の盛です。
0:37:40	五輪コウにご理解の通りでちょっとカラーじゃないのであれなんですけども何かちょっと白っぽくなってるところは伊豆東高に当たるところなので、35 ぐらいはもう伊豆当行の中にあるということなんです。で、
0:37:53	衛藤。
0:37:54	今ちょっと永松が少し説明しましたけどこの(1)の①はちょっとその地域性の話という前に、とにかく起こった事象を並べてみてもこんなものですよというところをまず、整理したというのが、
0:38:06	①の方です。もう少し、メカニズム解等も見ながらというのが②の方になっておまして、
0:38:15	今、志賀他の説明した 43 ページだったり
0:38:21	48 ページだったりということになりますんで、
0:38:25	実際に巨大地震が起こった後に、どういう地震が発生するのか当然応力変化、周りにも構造が違うといえども多少伝達しますので、
0:38:36	関係があるかないかって多分周辺現象的には全部関係があるところにはなるんですけども津波評価上、組み合わせる必要があるところまで関係があるのかって言ったときには、このメカニズム解が違つと。で、
0:38:47	地域性が当然あるということは 40、
0:38:52	48 ページの方で整理させていただいています。で、
0:38:56	南海トラフと構造が明らかに違って地殻が太いところで、厚いところでも発生している地震でそもそもメカニズムも、形成メカニズムも間違つと、地震のメカニズムが違つということ、
0:39:09	な巨大地震が起こった時にすぐこちらの正断層型の地震が発生するつというような、津波評価上の関連性というのはないんじゃないかつというような整理をさせていただいてるところで、
0:39:22	おい、
0:39:23	そうすつとこの 48 ページだったり、43 ページの後半の②の検討の方では、今日伊豆東高の
0:39:33	正断層群というの、
0:39:36	特にここについて南海トラフのプレート間地震本震が起こつた後に、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:42	何か抑制されるか或いは何か促進されるかという検討以前に、背景が違いますっていうそこではじいてるって理解でいいですかね多分ここを。
0:39:52	48 ページ見ても特にその抑制されるとかっていう説明はない、ないので、そこについては、何とも。
0:39:59	言いがたいけれどもそもそも、形成メカニズムが違うので、
0:40:05	それを同じ土俵で、一つのプレート間地震の津波と紐づけて津波評価上取り扱うほどではないっていう、
0:40:13	そういう線の引き方ですかね。はい。
0:40:16	あともう1点は、これは多分わからなかったのが結局33ページで言うところの27とか35とか、結局これわあ、特に発生タイプ。
0:40:27	は、
0:40:28	特にわからんなここは確かわからないってことでよかったんですねここ。
0:40:33	わかれば書いてありますっていうことでしたっけ。ちょっとすみません。
0:40:37	そこまでは書いてないのかなこれ。
0:40:45	はい。中部電力の盛さん。
0:40:47	明らかにプレート間地震だというふうに地震調査委員会等では言われているものは書いています。あとは深さがわかってはいるので内陸地殻内7日海洋プレートなんかぐらいの訳はできるとは思ってます。ただ、
0:41:02	メカニズムがわかるかっていうとちょっとそういうのが、網羅的に分かれていたというのではないと。
0:41:07	わかりました。何となく場所としては伊豆藤小の領域に入りそうだけでも、ザそこで終わるような正断層型かどうかは、そこはここではこの段階ではわからないってことですね。はい。
0:41:18	さすがにそこまでわかる時代のものではないと。
0:41:22	はい。
0:41:23	わかりました。
0:41:24	モッコアノ後の日向灘は最後ちょっと、どういう扱いになるんですかね。
0:41:33	例えば45のところ、
0:41:35	一応何か正断層は、
0:41:38	活発、M6程度の正断層の地震がと言っているけれども、
0:41:44	ここは一応南海トラフの全域なんで広義の意味で、日向灘まで入れて、
0:41:54	領域としては分けてますけど、この日向の扱いは、
0:41:59	これは遠いのでって意味なんですかこれ。
0:42:04	はい。江藤中部電力永松です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:08	津波を組み合わせるという観点で分析をする上で日向灘については、
0:42:13	南海トラフ。
0:42:15	年表現する時に日向灘もセットで
0:42:19	内閣府なんかでも、示すことがあるので一応お付けはしているんですけども、
0:42:24	日向灘の方ではですね、九州パラオ海嶺が沈み込む、その線量域等もかかっている、地域性がまずう異なっていること。
0:42:34	ですとか、敷地から離れているといったこともあり、
0:42:38	その地域性を行って地震の様式もあるってことで分析上、区分して示させていただいており
0:42:49	はい。御社のところで言う南海トラフのM9 クラスで、
0:42:54	モデル組んでいるところとは明らかに外れたところで、
0:42:58	はい。
0:43:00	ここは何で稗田の方は逆に言うと正断層ワダの金がこの辺で活発であろうがなかろうがあんまりここは、
0:43:08	この発生しやすくなるしにくくなるってところの議論はこちらもその議論から外しているという。
0:43:18	はい。中部電力の盛です。43 ページちょっと右側の図に緑で点点を売ってるところが最大クラスのは元気になってまして、で、
0:43:29	最大クラスの波源域の中には日向等を含んではおります。で、既往地震から
0:43:35	南西側にも大きくしてますので、最大クラスの方はですね、実際、最大クラスの中には入っているんですけども、左の図、
0:43:44	見ていただいても、もう日向灘、かなり南西諸島側の領域に入り込んでイワイで、地震の発生状況も違いますし、九州パラオ海嶺が沈み込んでいてという話はプレート間の方でもさしていただいている。
0:43:57	構造的にもかなり違って、起こってる地震とか、には地域性があるということ
0:44:04	一般的に言われていることかなと思っています。なので、まずここで区分けをさせていただいて、かつ、
0:44:10	敷地からも離れていますので、あまりここで正断層地震が起こっているからといって何かそこで組み合わせに、当社の敷地の評価の組み合わせに影響するものではないということをお考え
0:44:23	を、
0:44:24	はい、わかりました。多分日向灘を入れて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:28	考えてしまうと、
0:44:30	何ていうか、サイトの特性を議論しようとした時、一応基礎情報として載せてますけどという。
0:44:36	はい。
0:44:38	あとはデータを足したわけではないので、
0:44:45	終わりますか。
0:44:47	何。
0:44:49	分厚い。
0:44:51	議論ではないが、
0:44:57	おい。
0:45:00	わかりました。
0:45:02	そうすると②の検討の方は、マイズとかもともと外れてる費用等は切り分けて領域切り分けて、
0:45:11	データを 45 ページみたいに抽出をして、伊豆藤コウの方は構造の違いでこれは弾きアノ外しますと。
0:45:20	残った南海トラフとその南海トラフの、
0:45:23	沖側ですかね。これについて、御社としては、
0:45:29	実際 1997 年前回からも前回のヒアリングでも四国は致し方ないところで、
0:45:36	ある程度か実績としては限られたところの実績しか拾えませんけども、
0:45:41	中抑制型に働くという
0:45:45	これは実績の方ですね、もともとメカニズム的にそうだという話、わあ、
0:45:51	別のページで、何ページだったかな。
0:45:54	37 ページですね。これはあった上で、実際のところはどうかっていうところを、データをもとに検討しましたと。
0:46:03	いうす。
0:46:04	かと思います。はい。
0:46:09	と、
0:46:10	当資料のタイトルは今回プレート間地震とプレート内地震の組み合わせ要否と五つ。
0:46:21	一応ここは内陸地殻内地震も含めて、
0:46:24	名和坂は伴下盤も含めて、一応、この
0:46:30	いわゆる応力変化という概念では、どちらも組み合わせる必要はなくて内陸地殻内はいずれにしろ、連動型の方で保守的に見ますという。
0:46:39	そういう論旨でいいんですよねここは。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:42	ここは
0:46:43	どのみち、組み合わせる内陸地殻内は今回あんまり大きな論点にはならないんで、ここまでプレート内地震が、
0:46:50	組み合わせるか組み合わせないかっていう、
0:46:53	このをぜひ関わりますけど、
0:46:56	特にプレート内地震だからとか内陸地殻内地震だからというわけではなくてここはどちらも御社として起こりにくい側に働くという
0:47:07	ことで、はい、説明としては、
0:47:10	お願いしました。
0:47:12	いいですかね前回、
0:47:16	確認しきれなかったところ、これはもう含めてある。
0:47:28	すいません。中部電力の森です。ちょっと今し方の鈴木さんからご指摘というか
0:47:35	確認のあった事項として 49 ページのところちょっと今回、
0:47:39	前回のヒアリングも踏まえてちょっと、
0:47:42	追加をしてまして、
0:47:46	図の中での緑で示してますメカニズム解の確認、どうしてもあるデータでしか確認できないということ等も、もちろん我々としてもわかっていますので、
0:47:56	ここの断層活動の影響の検討としては、この
0:47:59	右側の起こった地震の検討と、あとは実際にどういう断層があるのかっていう二つの確認を行った上で、逆断層型の
0:48:10	楽団外の圧縮型の断層が分布しているという結論を持っていってるとちょっと説明上わかるように、追加をさせていただいております。すいませんちょっとここは補足でございます。
0:48:21	はい。
0:48:23	実際のものでちょっとそこをすいません省略しましたよね。多分ここは 48 から 4、46 から 48 これは何ていうか、所要の前提というか、
0:48:34	多分連動型の方にもひっくるめての、
0:48:36	基本情報というんですかね。
0:48:38	そもそもどういう場所だっというところで、それに対して、
0:48:42	メカニズムの検討しましたと。
0:48:44	それがあ程度文献って言われてるメカニズムとしてはどうだっという話と、或いは実際F-netの解析結果、
0:48:53	から、それを一応御社としては、浦さらに裏付けるっというような

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:57	うん。話かと思しますので、はい。
0:49:01	ちょっとあとこれは元に議論ということかと思しますが、
0:49:05	また後で、
0:49:08	戻ってくるような、
0:49:10	形でもいいですか。
0:49:14	もしくは後は一応、
0:49:18	この説明次第で、かよプレート内そのものの方はこれは前回前々回も、
0:49:27	本編資料の方ですよね。
0:49:30	ことではあるんですけど、ちょっとですね
0:49:34	すいません、脱線というか今回の主な論点では、
0:49:40	ないのだけれど、3本編の方の30、
0:49:46	3ページかな。
0:49:50	ファクトだけ。
0:49:53	確認しておきたいのですが一応プレート内の方も、
0:50:00	想定御前崎沈み込むプレートのIDCの津波はこれ一応概略というか
0:50:08	解析はしていて、
0:50:11	これって一プレとかもう海域活断層もそうですけど、
0:50:23	これ
0:50:25	設定、そっか。
0:50:28	これプレート間はプレート間、海域活断層海域活断層でそれぞれの計 算の中で、
0:50:34	この推移の中にあれですよそれぞれの地震による地殻変動みたいな のって、
0:50:40	内数に入ってるんですけど。
0:50:42	確か。
0:50:47	はい。中部電力の盛です。内数に入っております
0:50:52	次、各変動量解析の結果をそのまま入れてシミュレーションや、
0:50:56	ていますので、
0:50:59	当然沖合でも隆起してますし利食いキーでも隆起人口があるというよう な計算結果をそのまま使っております。
0:51:06	はい。
0:51:10	で、すいません、隆起する場合は隆起しないというような処理をして、
0:51:16	はいはい、隆起するけれども隆起しないと上昇側隆起しない扱いで、下 降側隆起する扱いでっていうあそこははい。
0:51:24	共通で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:26	その時でこれプレート内とかあとおす、回帰活断層も軒並み隆起する側でいいのかな。
0:51:36	ですよ。多分、逆断層の上盤側。
0:51:44	はい。中部電力の盛です。波源がちよ、サイトの下に波源があるものでないとあんまり、滑り量も大きくないです。でほとんど隆起沈降がないっていう時、
0:51:55	外ではありますけれども、
0:51:57	西部をマエダ海脚西部ですね、は今、敷地の下ぐらいまで断層も引いているものになってますので、そちらだと実際の隆起量としては、40センチ弱ぐらいの隆起するようなシミュレーション系
0:52:10	になってます。で、こちら上昇側は隆起させないというような処理をして計算して、
0:52:18	はい。そっかそれが36ページだったの例みたいな形で、地盤隆起が地震によって約1メートル生じた場合の例、これはあくまで例なんですけど、
0:52:28	あれプレート間地震、もちろんそれぞれごとでモデルによって若干、
0:52:33	違いはありますけど、プレート間地震だとメートルオーダーで、
0:52:38	あるんですけど。ちょっと今わからなければ別に
0:52:41	この場、今回の議論の大きな論点ではないんで結構ですけど、大体そのプレート間地震だとどのぐらいで、さっき御前崎海脚とかだと数十センチ40センチって、
0:52:52	プレート内もどのぐらいになるんですかね、これ増えたのはあんまり。
0:52:56	遠いから変わんないのかな。
0:52:59	はい。中部電力の盛です。
0:53:02	今考えている最大クラスの基準津波、基準津波じゃないですね、プレート間地震の津波評価で一番大きいモデルだと約2メートルぐらい、敷地が何もしないと隆起するような計算なっています。
0:53:12	で、こちらで示している1メートルっていう過去の宝永地震とか、
0:53:18	安政東海地震の実績で1メートルぐらい隆起したというような実績がありますので、その痕跡再現モデルですね。
0:53:25	痕跡再現モデルで1メートルぐらい隆起になりますので、まずその例として記載させていただいているものになります。
0:53:31	あとあの海洋プレート内地震は今

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:35	沖合にあるもので津波が一番決まっていますのでちょっと距離が離れていてかつ波源も小さいので、ほとんど隆起沈降しないというような状況で、
0:53:49	ありがとうございますすいませんちょっと解析条件の、今回あまりプレート内地震の、
0:53:55	個別の評価の方法みたいなところは、
0:53:58	あまり
0:54:00	そこは、もう一度ご説明聞いてるんで、すいませんちょっと脱線しましたけど、
0:54:04	はい、ありがとうございます。
0:54:07	申しければ一旦プレート間地震の方のコメント、
0:54:13	回答の方に行きますまた後で全体通して何かあれば、
0:54:18	ご質問あればおっしゃってください。
0:54:21	プレート間地震のコメント回答、これも
0:54:26	2回目ということなん。
0:54:36	どうしようかな。
0:54:39	10 ページから検討概要ということで、
0:54:48	とこの第 1 章は、一応費用津波の整理だとシミュレーションと、
0:54:55	等々本編見るとそういうところまで書いてありますけどここは南海トラフ M9 クラスを考慮しますというところで、
0:55:02	ここはちょっとここ特に、
0:55:04	入口のところは、あんまり変えてないので、
0:55:08	今回のコメント回答ではあっさりとした上で、2 章以降ですね、ここ
0:55:14	は前回は確認しましたけど、
0:55:17	ちょっと本編と突き合わせながら、
0:55:20	アミノナカというか時節整理していきたいんですけど、一応今回、
0:55:27	11 ページのフローですね。
0:55:29	前回のヒアリングを確認しましたがまずは既往最大の方
0:55:36	でこれの痕跡を再現してそれをもとに、
0:55:40	M9 クラスに拡張しますと、その際には、
0:55:45	広域、より広域の滑り範囲を大きく設定する土木学会 2016 使いましたと。
0:55:52	その下の、今度敷地周辺津波影響特に考慮したっていうところで、
0:55:59	ここ出てくる浜岡敷地では既往最大地震である宝永地震の津波よりも安政東海地震等の津波の方が大きいこと等を考慮。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:08	て言っている。
0:56:10	これだから、遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル作るなんてか動機づけですよね。
0:56:17	これは一応本編の中だと。
0:56:20	話の流れとしてですよ。
0:56:27	既往消失はどこになるんですかね。
0:56:36	やはり、中部電力の方でちょっとここ今回のコメント回答にも関連するんでページの紐付けさせていただきたいと思いますコメント回答。
0:56:43	当資料の方でよろしいですかねコメント回答資料の今回、
0:56:46	26 ページに、
0:56:53	今回ページ追加させていただいてましてこちらでこの敷地周辺特に高齢者モデルの設定方針ということで、このモデルを作っていくという動機づけとして1枚、整理させていただいてますこちらで、
0:57:05	赤字のところをもう少し詳しく書いた資料を用意しております。はい。何でこれがコメント回答でいうと26、4ページ、24ページまでがあくまで放映の既往最大、
0:57:16	痕跡再現でモデルC、
0:57:18	の設定で、
0:57:21	そのあとに26ページのこれわあ、
0:57:25	真ん中の、
0:57:27	これこれですね津波堆積物から推定される津波高っていう、
0:57:32	これで、
0:57:33	演習等のところでは必ずしも宝永のものが一番、
0:57:37	高いところで認められてるわけじゃないのでっていう、これを動機付けにしてるわけですね。
0:57:42	本編でも一応そういう流れには、
0:57:46	なっ
0:57:47	てますよねというところだけの確認なんですけど。
0:57:55	中部電力の盛さんの本編の方だと58ページの方に、同じページを入れ込んで、
0:58:04	おります。
0:58:09	はい。なんで本編も、多分ここが市この話の晶出なのかな。
0:58:15	ですかね。
0:58:18	ですよ。大丈夫ですねはいはいはい。
0:58:20	それまでは既往最大の説明なり、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:23	Kカップーでの再現性なりの説明ということでは、わかりました。
0:58:30	それで既往最大に対しての方をベースにしたモデルに対して、
0:58:37	遠州灘に特化した再現モデルを作っ。
0:58:41	で、
0:58:43	所マルトク
0:58:46	底の場所での影響を考えるんで、生体する考えに大きな津波は図でこれ内閣府の所を使いましたと。
0:58:53	それでM9 クラスに拡張して、
0:58:56	基本となる 4 倍滑りのモデルAを作りましたと。
0:59:02	ここカラーAと敷地に特化した方は分岐断層は基準ガイドですかねガイドの方で、
0:59:10	プレートを管理費に対して、そういうものも考慮するようになってるんで、モデルBを作りましたと。
0:59:18	さらに今度はモデルAとも出るし、
0:59:22	隠してAとモデルCの会員観点を取り入れてモデルDにしましたと。
0:59:29	はい。はい。
0:59:34	ここは前回のヒアリングでも特にこの位置付けなりを入れ替えたところは確認しましたが、特に何か疑問点は、
0:59:43	よろしいですかね。
0:59:45	はい。
0:59:46	そこから先は前前回介護から、特に大きくは変えてない部分ですけど、まずは、
0:59:53	この四つのモデルに対して滑り域の位置に関する概略パラスタをやりますと。
1:00:02	なんですエリアの通り滑りして、位置をずらしていきます。その結果大きかった検討波源モデルAとDが残り、
1:00:11	それに対して詳細パラスタをやりますと。
1:00:15	これも前回確認しましたが、なので日本海溝の手法用いたモデルとの比較は、
1:00:20	ここ冷凍痕跡再現モデルの位置付けを再整理し直したので、比較すべき対象はモデルAと、モデルシームの特徴も取り入れて、
1:00:32	取り入れ、
1:00:33	最後基準断層モデルとか、概略パラスタの結果、
1:00:38	モデルCよりも大きいというモデルDですね、AとDに対して、
1:00:43	日本海溝の手法を用いたモデルとの比較をしましたと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:49	はい。それはですね。
1:01:03	それは、
1:01:05	クラークがどこ行ったっけ、取っちゃう。
1:01:09	まだ、
1:01:12	それか、39 ページからですねはい。
1:01:16	まずは、これは前回介護からモデルADに対して日本海溝の手法との比較は、
1:01:25	比較の観点は特に変えてないんですよね滑り分布、
1:01:30	とあとはその滑り量で、これが日本海溝の種を比べて滑り分布も、
1:01:37	面白くないし、
1:01:39	滑り量も 40 メートルを超えるような町を滑り域が設定できると、日本介護の方が 30 数メートルに対してですね。
1:01:47	地殻変動なり、その地殻変動の分布ですかねこれを見ても、
1:01:52	かなり例えば日本海溝のモデル市みたいに根深い。
1:01:57	沖んところまで深い領域まで大きいものこれはモデルDの観点に入ってるし、
1:02:02	トラフ軸で特に大きいみたいなものも、これモデルAの方でも
1:02:06	いるし、
1:02:07	実際の地殻変動量を見ても
1:02:10	同じか、むしろ検討波源モデルの方が大きい。
1:02:17	ということで、一応ここはモデルCが
1:02:21	なくなったので説明としてすっきりしましたということかなと思います
1:02:29	そうすると次が、11 ページで言うと詳細パラメータスタディに、
1:02:36	なんですか。
1:02:40	これはですね、ちょっとこれ過去にも何回かご説明いただいているところ、恐縮ではあるんですが、43 ページ。
1:02:50	結果の方は、今回コメント回答の中にも水水位低下がというか、
1:02:56	取水槽等取水塔の方ですかね、これは入るんですけど、
1:03:02	ちょっとこの検討手順の、
1:03:04	ライズタイムで次に破壊開始で破壊伝播速度っていう順番にそもそも設定している、この部分。
1:03:12	すいませんこれ多分、何回か説明いただいている部分だと思うんですけどちょっともう 1 回この順番。
1:03:19	に、
1:03:20	ている。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:22	考えというか根拠ですかね一応MwM9 クラスだとライブは井戸那須波対に与える影響大きいと考えられる。
1:03:32	なのでまずそっちをやります。そのあとに、
1:03:34	破壊伝播速度は買い替えます。結果からいえる部分はもちろんあるんですけどそのやるやる前に、まずこの順番にしましょうって言うてる。
1:03:43	これをちょっと本編とかを使ってもう一度教えてもらっていいですかね。
1:04:05	はい。中部電力の盛です。本編でいきますと、同じスライドが 134 ページからになります。
1:04:14	ライズタイムの影響が大きいということについては、
1:04:22	例えば、これまでもご説明させていただいてきた 138 ページ等ですかね。
1:04:31	ちょっと補足にはもう少しあるんですけども、
1:04:34	ライズタイム基本的には津波水位に直接影響するような場合、滑り量と一緒に直接影響するようなパラメーターだということをこれまでもご説明させていただいています。で、
1:04:44	当然滑り量はまず大きくするというのと、ライズタイムを短くすればそれほど津波で大きくなるということが、理論上はわかっていますのでそこについて、
1:04:55	津波に
1:04:56	M9 クラスの地震については、ライズタイムが長いというようなこともありますので津波への影響も、パラメータ設定によって大きくなっていくということで、まず、津波のライズタイムについてパラメータスタディを実施していると。
1:05:11	破壊伝播速度と破壊開始点についてはちょっと大きくなるか小さくなるかっていうところが明確でないところもありますので、
1:05:20	それをと、あと、そのあとに実施しているという順番でまずはやってみて、今回、妥当性確認としてきちんと検証しているという立て付けになっ
1:05:35	わかりましたねあって、
1:05:39	独特にあれですよねライズタイムでそのあとに破壊開始段階伝播速度の順番で、
1:05:44	やる。
1:05:46	ようにという何か決まり事があるわけでもなくないし、実際に、
1:05:52	そもそもあるか内閣府とかの検討だと、後者はいじってないか。
1:05:56	あまりライズタイムとか破壊開始点とか、細かい、
1:05:59	ものをやってないのでだから実例があるわけじゃないんですよ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:03	ですね手法なり実例があるわけじゃないけど、そもそもここ、ここまで大きな滑りを設定してるんだとすると、
1:06:11	それはRISE、実際そうですね敷地前面なんかは、ライズタイムの方が、
1:06:16	普通に、
1:06:17	考えてその影響が一番でかかろう、それはあんまり細かい
1:06:22	取っかかりとしては当たり前の考えですっていう、そのぐらい、いいですか。
1:06:27	あんまり特に何か方法として決まり事があるわけでもないんですよこれ確か。
1:06:33	はい。中部電力盛です。おっしゃる通りで、何かこの順番でやらないといけないということは特にないかと思います。
1:06:42	米倉間野でございます。森が言ったようにちょっと補足にはもう少し昔、過去いろんな検討してございますが、やっぱり綱ミイ、
1:06:51	ていうのは、その改訂の、
1:06:55	近くをどれだけ持ち上げるかによってその大きさっていうのが、効いてきますのでそれに関わってくるのが多分ライズタイムだけでは回転不足だとか、破壊開始点っていうのはその伝播の途中の
1:07:09	話であるので、その一番オオモトに影響を与えライズタイムというのを、最初に見ていると、ただ、若干チキンアンドウエグチ それは当然やった結果としてそういうことも確認した上で振っていつてっていうのが過去ではありますが、
1:07:23	今改めて言うとするとなんかそういふところかなと思っております。
1:07:28	はい、わかりました。
1:07:31	その上で、敷地前面はこれは綺麗にライズタイム、
1:07:40	とを、ライズタイム早くすればするほど、
1:07:44	影響が大きいと。
1:07:47	まず、水ですね式攻めの水位が大きいという傾向がはっきりしてるんで、
1:07:51	これは 60 様ケース、もともと、
1:07:56	基準断層モデルとしては少し広目に五つですかね、設定しておいて、いずれもライズタイム、
1:08:03	見立て通りライズタイムが短いほうが影響が大きいんで、破壊伝播速度破壊開始点は総当たりでやりましたと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:11	取水槽と取水塔はこれはライズタイムと破壊伝播速度破壊開始点の影響がそれほど大きく変わらないので、
1:08:22	これは過去のコメント回答ですすでに対応済みですけど、
1:08:26	長ライズタイム呉のパラスタを
1:08:30	やったケースについて
1:08:34	必ずしもライズタイムだけで一番大きいものではなくてその前後の分前広に
1:08:40	破壊伝播速度破壊開始点の総当たりの解析をやりましたと。結果は、やっぱり 51 ページで、
1:08:48	できると一応傾向としてわあ、
1:08:52	一番濃い青とか一番濃い赤ですかね取水槽、
1:08:56	の方に関しては、
1:08:58	ライズタイム 60 秒以外のものもやったけれども、
1:09:02	もう最終的にはそこを、2 が破壊伝播速度破壊改正も含めて一番そこが影響が大きいってところ落ち着きましたと。
1:09:11	水位下降側の取水塔については、
1:09:15	両豪雨最終的に、例えば 2a 断層モデル 2-1 であれば、
1:09:24	90120150184 ケースやって、一応、120 秒。
1:09:32	上から 2 番目の 120 秒のところが一番長い時間叩いてるんで、
1:09:38	これがだから、例えばコウ 90 秒とかですね、例えば断層モデルに 200、断層モデル 2-2 の、これ 210 秒のところが一番叩くと。
1:09:48	ちょっと、もしかしたらというのはあるかもしれませんが、
1:09:51	一応こうピークになるところはこれでたたき切って取り切っていると。
1:09:56	いう、一応最後この、
1:09:59	51 ページのこの下の図みたいところで、
1:10:02	最後わーピークをとってますっていうそういう説明になるんですよねこれ。
1:10:10	はい。10 分力の盛です。すいませんちょっと説明が悪かったかもしれませんが。50 ページは検討範囲ということでライズタイムを振った。
1:10:20	時の結果を今載せてまして、この範囲でやってみますという検討範囲のものになります。で、
1:10:27	52 ページ 53 ページが上昇がコガでのそれぞれの
1:10:31	ここからさらに、破壊伝播速度破壊開始を振ったときにどうなるのかっていうな結果を載せてます。で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:37	こちらで見ていただくと、最大っていうふうに書いてあるのが最終的に最大になったケースで、
1:10:42	赤色のバーがもともと選んでいた基本的なケース、今回組み合わせの検討もしてみましたというのが、やや薄い赤色のケースになります。で、
1:10:52	上昇側の方は、
1:10:55	濃い赤と最大とかいうのは変わっていませんので、組合がやってみましたけれども結果が変わっていないということで妥当性確認できたというのが常習化の結果になります。
1:11:05	で、反対に、53 ページの方の下降側、衛藤最大という書いてあるケースと、
1:11:13	青い濃いもので書いてあるものに対して薄いのが、組み合わせで検討しましたというケースなんですけども、ちょっとではありますけども、やや横にずれているというケースもあるので、
1:11:25	組み合わせの検討まで行うことによって最大が抑えられているということをごちら確認できたというものです。で、
1:11:32	一番端っこで最大が出てるっていうケースもないですので、上に凸のところは抑えられているところを確認しているというのがこちらの確認結果になり、
1:11:45	あ、わかりました。はい。取水槽の方は若干、
1:11:49	最大ケースはずれ、横に横についていかずれるけれどもそこもカバーできるような
1:11:56	範囲を、51 ページのところでしたと、拾えてましたという説明ですね。はい。
1:12:03	藤。
1:12:04	はい。
1:12:10	あとは、
1:12:12	島全体の構成を見直してないか工夫 2012 の知見みたいなものは、
1:12:19	それぞれのライズタイム設定する際にとかですね、滑り量を設定する際に行ってこのところでは、
1:12:27	参照しつつ、一番最後の、
1:12:31	一番最後にチェックという形で、5657 ページ。
1:12:36	ですかね。
1:12:38	これは、そのケースの分、モデルAに対してですけど、例示ですけど、
1:12:45	滑り量の設定なり、滑りの位置だったりライズタイムだったり、
1:12:52	もろもろですかね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:54	それぞれ、同等ないしそれより幅広い検討を、
1:12:58	しています。
1:13:00	はい。
1:13:02	うん。
1:13:11	はい。一番大きいところは、ちょっと痕跡再現モデルの入口の部分の、
1:13:17	整理かと思えますんで。はい。
1:13:20	よろしいですかね。はい。
1:13:23	まとめ資料ではないので、本編とか細かいところまでは、今回拾いませ
1:13:33	んけど、特にプレート間の方で、
1:13:37	ありますか。大丈夫です
1:13:42	か。
1:13:43	はい。
1:13:50	じゃあ、あとは、先ほどの組み合わせのところにも含めて全体で、
1:13:53	0%。
1:14:06	よろしいですか。
1:14:06	新保。
1:14:08	津波の規制、
1:14:13	市長。
1:14:15	道口です。
1:14:22	すいませんちょっとあの、まずプレート間ので、確か前回 12 月通でした
1:14:26	ねヒアリングでその時にすいませんちょっと私、
1:14:28	聞いてすいません。資料だと 17 ページで、
1:14:29	内閣府の、
1:14:32	モデルについて、
1:14:39	前回の時にその
1:14:48	内閣府は広域では使えないっていうようなお話をされたと思うんですけ
1:14:49	どちょっとそこは一応確認なんですけど。
1:14:59	内閣府の設定方法で、2011 年の東北地震津波を再現しようとする、
1:15:02	大きくなりすぎちゃうから、
1:15:06	使えない。
	ていう意味で、あのときおっしゃっ。
	中部電力の森です。
	そういうわけではなく、23 ページ見ていただく。
	9 と例えば何例えばちょっとなんですけど、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
 発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:12	左側の佐竹先生の津波インバージョン結果の分析なんかを試してみたときに、どういう滑り量と、面積割の特性化をするのかというところでちょっと二つ並べていますんで、
1:15:24	上側の円買い、杉野さんっていう杉野さんのモデル自体は広域できちんと再現できますよということも検証されているモデルになります。で、下側の内閣府の方は
1:15:36	4倍の面積が何%で3倍にフナツ%でっていうの分析はしてるんですけどもこれで広域を再現することまではやっていなくて、
1:15:47	なんで滑り量の特性化まではしてるんだけど広域の再現モデルを検討してるわけではないモデルになってますんで、例えばこれで
1:15:56	次、実際にや内閣やってないのであれなんですけども、
1:16:00	キタノ法ミナミの方の松波が再現できないようなモデルには、実際にはなってますよということとそのあとの津波レシピの時の地震調査委員会なんかで検討されているので、
1:16:13	特にその広域の再現性に気を使ったモデルというわけではないということは申し上げた。
1:16:20	はい、わかりましたありがとうございます。
1:16:23	はい。
1:16:24	ものでございます 55 ページに、
1:16:28	多分もう道口さん見られていると思うんですけど、
1:16:31	一番左上に、
1:16:33	内閣府の、
1:16:35	基本的なケースってのは五つ書いてあつ。
1:16:38	あるんですけど、
1:16:40	江藤、赤く四角く囲っているのが浜岡に一番影響大きいケース 1、①というものになってましてこれ、これ見ていただくと滑り域、町を滑り域が今一番ヒガシ橋になってるこれを、
1:16:54	順番にですねこの五つのケースで西に少しずつこうずらして行って、全国を網羅して、最大の影響を見るっていうのが内閣府のこのコンセプトで作られてるもんですから、
1:17:09	区切られちゃってるんですね。なのでその広域全般をこの形。
1:17:13	滑り域の張り方で、
1:17:17	再現するっていうのは、できないという趣旨でお話をさせていただいております。で、土木学会の方は

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:26	一括全体をぱっとハッタ上でやっていたというところの違いが出てまして、内閣はあくまでこうやってエリアを順番にずらして、全国を網羅している。
1:17:37	いう形になってます。
1:17:41	わかりましたありがとうございます
1:17:43	あともう一つすいません、海洋プレート始めの方の資料ですかね、基準津波の策定のうちRIS地震による津波についてということで、さっきの取りシマのやつで、この前ちょっと技術情報検討会もでもやったので、
1:17:56	ちょっと念のため確認なんですけど、
1:18:01	初めに 13 ページのところ、
1:18:04	津波マグニチュード-1 を上回る津波だっということが整理されているってことだと思うんですけど。
1:18:13	この下の右が、
1:18:15	下の表ですよ。米印がついている。
1:18:18	中で、括弧書きの、
1:18:21	1 と 2 と見て、M5 クラスM6 クラスでもこれが、
1:18:26	警護イベントってところで、それが 24 ページで、
1:18:30	およそ 10 年間隔で繰り返されているっていう、Smithカルデラのところの、
1:18:37	ていう、そういうイメージでよろしい。
1:18:45	はい。中部電力の盛です。24 ページの青枠で囲っているのが赤、囲ってるとか人上載がかかっているんですけども、アノズ、
1:18:55	津波が津波を起こしたものになります。で、2c7 個あると思うんですけども、右側で、前のページで検討してる範囲をちょっと線で点線で引いているのでその中に入っている。
1:19:09	ご自身が前の表にあるものになりますんで、それより前とそれにあともう起こってるものがあるんでちょっとそれも、
1:19:16	含めて、最新のものも含めてこちらの図には、図カセ
1:19:21	あ、はい、ありがとうございます。ここで火山性地震であることが推定されるっていうのまず 1 ポツ目で書いてあるんですけど、
1:19:28	この真ん中のやつで、
1:19:31	おそらくその下二つは大柿のやつですよこれはその正断層型の地震って言われてて、
1:19:37	火山性の地震ではないっていうふうにも多分地震本部の資料にも書かれてると思うんですけど。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:45	その辺がちょっとわかりにくいかなと思ったんですが、
1:19:51	はい。中部電力、すいません。もう一度お願いしてもいいですか。
1:19:54	真ん中の信用分布とメカニズム書いてあって、下側の、
1:19:59	二つの青枠の、
1:20:03	モーメントマグニチュード 6.1 と 6.4 っていう、
1:20:06	今回の活動の最大規模って書かれて 2023 年 10 月 5 日と。
1:20:11	2006 年 10 月 24 日のは、
1:20:14	正断層型の地震で、フィリピン会プレート内で発生したっていうことが、
1:20:20	言われてると思うので、
1:20:21	これはちょっと火山性地震とは違うかなと思ったんですが、
1:20:28	はい。中部電力の盛です。こちらの津波マグニチュードー1 の方の二つ ということですね。ちょっと今回の
1:20:37	2013 年 10 月 5 日のやつも、火山性地震じゃないというふうなお話。
1:20:44	そうですね。はい。
1:20:47	わかりましたちょ、ちょっと
1:20:50	この資料作った時点では 2 ポツ目に書いたように、
1:20:56	火山性地震、石渡委員もおっしゃっておられたと思いますけども、火山 性の地震だというような情報もあったのでちょっとこのように記載させて いただいておりますちょっとまた最新の、はい。ちょっと確認、多分 11 月、
1:21:08	10 日ぐらいに出てるやつには、はい。
1:21:11	ここの下のものは、
1:21:13	正断層型って言われて、
1:21:18	だと思うのでちょっとそこを確認いただきたいなと思うのと、
1:21:22	あとその 2012 ですね、10 月 9 日ですね、それは、
1:21:25	ちょっと我々も現時点では火山性、
1:21:29	火山活動によるものかなっていうふうに思っているところなんですけれ ども、まさ、上の五つのイベントの Smith カルデラで起きたものと、
1:21:39	また発生場所とかちょっと違ったりとかするので、そういう意味では、
1:21:44	清時間間隔これは、もしくはその他の地震のって書いてあるんで、そう いう火山、
1:21:49	活動によるもの。
1:21:51	こう見ていないのかなと思ったりもしたんですが、ちょっと場所が違っ たりとかするので、その辺の説明がもうちょっと書かれてた方がいいのか なって。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:00	思いましたので、
1:22:02	はい。中部電力の方でちょっと最新知見もう一度確認します。かなり非W株成分も多いので可能性なのかなというところもちょっとあって、
1:22:12	はいたんですけど、また、試験を確認してちょっと最新の情報にアップデートさせていただきたいと思い
1:22:18	23 ページの結論が変わることはないと思うんでちょっと米の数が減ったりだとかというところを少し対応させて
1:22:26	はい、そうですね。
1:22:28	よろしくお願ひ。この括弧の中のやつは火山性地震っていうことで整理されてるってこと
1:22:33	よね。
1:22:35	表の、23 ページの表の中で、
1:22:39	津波マグニチュード別って言って0とか-1のところM5 クラスM6 クラスの
1:22:45	鍵括弧の中の1とか2の数字は、これは火山性地震。
1:22:50	ところで整理され
1:22:52	て、
1:22:53	この後イベントが、
1:22:55	おそらく24 ページの、
1:22:57	真ん中のだと。
1:22:59	上の五つの、
1:23:00	大柿であるSmithカルデラのことなのかなと理解していたんですが、
1:23:09	23 ページは1900 あれこれ89年から2021年、
1:23:16	ですよ、それで五つだと次のページで言うとそっから外れる。
1:23:21	1984年6月13日M5.9と、2023年10月5日M6.5が、これは前の23ページから外れる。
1:23:32	ていう、
1:23:34	なんじゃないでしたけどさ単に
1:23:38	何時から何時までっていう、
1:23:40	くくりが違うんですよねこれ。はい。中部電力の盛です。
1:23:45	2自身はちょっと外れてまして具体的に真ん中のところで※が打ってあるもの、※1と※2が打ってあるものは、前のページの検討の対象外の期間になっています。
1:23:56	で、今の10月5日の地震はだから、上側の気象庁のカタログにはまだないものになりますので、外れているものになります。で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:06	2006年の10月24日の地震ですねちょっとこの扱いを、
1:24:12	どういうふうにも、最新知見になってるのかというところで、少し確認さ
1:24:28	はい。前のページと20、
1:24:31	4ページで対象期間がちょっと違うという。
1:24:36	はい。衛藤中部電力赤松です。この21年、
1:24:40	倍ということで、22年のあの辺りまで引いてるのが24ページのこの、
1:24:45	前ページの対象期間
1:25:34	はい。
1:25:41	はい、他よろしいですか。
1:25:45	おい。
1:25:47	それでは、
1:25:50	ではヒアリングは、
1:25:52	以上で終了ということで、
1:25:55	中部電力から何か、
1:25:56	いいですか。
1:25:59	はい。特にござい
1:26:02	はい。先ほどの鳥SIMMERの話なんですけども、その23ページの括弧に記載するかどうかということと、ありますけどもさっきの火山性なのか、正断層、そのときとテクトニクス的なものなのか火山。
1:26:17	の関係の、正断層型なのかってのをちょっと調べて記載させていただきますけども、
1:26:22	その鳥島近海ではちょっと、
1:26:24	特集にマグニチュードに対して、津波が発生。
1:26:28	するっていうゴトウは一般的に言われてるのでちょっと23ページの記載をどうするかっていうのも、ちょっとさっき
1:26:35	申し上げましたけど、
1:26:36	ちょっと考えて、
1:26:38	してやらせていただきます。
1:26:40	以上です。
1:26:47	はい。現時点の知見に照らして、
1:26:50	そこは正確な記載にということなんで結果的に23ページの範囲内で、括弧書きの中の数が増える。
1:27:00	が、いるのか、別括弧から外れるのか。
1:27:03	そこら辺は
1:27:05	今わかってる範囲のところまで火災進化してくればいいのかでは

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:11	はい、よろしいですかね。
1:27:13	じゃあ、
1:27:15	ヒアリングは、以上で終了します。お疲れ様でした。ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。